

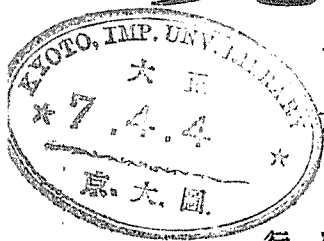
大正五年四月六日第三種郵便物認可
大正七年三月二十七日印刷納本(毎月一回一日發行)

哲學研究

第參卷 第四册

第二十五號

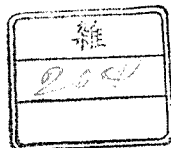
大正七年四月一日發行



本邦に於ける祖先崇拜の形式及意義の 變遷……………	文學士	春山作樹
ストゥムプの情覺說……………	文學士	野上俊夫
象徴と觀念(藝術と哲學)……………	故文學士	岡本春彦
ロツエ妥當說の由來(承前)……………	文學士	錦田義富
ミカイロヴスキの社會學說の創始的 價值(完結)……………		米田庄太郎
彙報……………		

京都市帝國大學文學科大學內

京都哲學會



京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一、毎月一回研究會ヲ開ク
- 一、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク
- 一、毎月一回雜誌『哲學研究』ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文科大學内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一、委員(若干名)京都帝國大學文科大學哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
- 一、書記(一名)委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得
- 學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年貳圓八拾錢、前後二期ニ分チテ前納スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得且ツ雜誌『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

京都哲學會役員

委員

文學博士	波多野精一
文學博士	西田幾多郎
文學博士	朝永三十郎
文學士	千葉胤成
文學博士	狩野直喜
文學博士	米田庄太郎
文學士	高瀬武次郎
文學士	植田壽藏
文學士	野上俊夫
文學博士	松本文三郎
文學博士	深田康算
文學博士	藤井健治郎
文學博士	小西重直
寶嚴	方治

書記

1. Frazer, Literary History of India の紹介及びその批評

手 島文學士

原、宮城、鹽崎、高島、本田の諸氏出席。

寄贈書籍雜誌

學 文學士松浦一著 東京贊文館。哲學雜誌、思潮、丁酉倫理講演集、心理研究、人性、六合雜誌、東洋哲學、東亞之光、早稻田文學、學校教育、普通教育、小學研究、教育研究、教育界、教育時論、東京教育、兵庫教育、奈良縣教育、靜岡縣教育、滋賀縣教育會雜誌、愛知教育雜誌、都市教育、佐賀縣教育、宮城教育、愛媛教育、山形縣教育、秋田縣教育雜誌。

現代日本人の信仰 文學士飯沼龍遠著 心理學研究會。生命の文

前 目 次

輪廻轉生と解脱	齋藤唯信
極限概念としての文化價值	法學博士 左右田喜一郎
獨逸唯心論に於ける哲學的認識の問題(完結)	文學士 田邊元
神秘主義の爲に	故文學士 岡本春彦
彙報 新著紹介	

會 告 定 價 廣 告 料 註 文 規 定

一、本會へ入會希望ノ方ハ直接本會宛テニ御申込被下度候
 一、會員ニシテ轉居セラレタル節ハ直テニ其旨御報知被下度候
 一、會費ハ振替口座大阪參〇六六參番、京都哲學會宛テニ御拂込被下度候
 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・交換雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學 京都哲學會
 文科大學内 振替口座大阪參〇六六參番

冊	數	定 價	郵 稅
一冊	冊	金貳拾五錢	金壹
六冊	冊(前金)	金壹圓五拾錢	不 申 受
十二冊	冊(前金)	金參圓	不 申 受

●會員にあらざる諸讀者の御註文及び廣告に關する件は寶文館へ御申込下され度候
 ●本誌の御註文はすべて代金郵稅共前金にて御送り下さるべく候
 ●振替貯金にて御送金は(東京二八〇番)寶文館宛に願上候
 ●前金切れの場合は帶封に「前金切」の印章捺捺致すべくに付直に御拂込下され度候
 ●見本御入用の場合は金貳拾錢御送り下され度候
 ●特に請求書及領收書等を要する場合は郵券三錢御送付下され度候

大正七年三月二十七日印刷納本
 大正七年 四月一日發 行
 第二十五號 第參卷
 第四册



京都帝國大學文科大學内

編輯者 京都哲學會

右代表者 寶嚴方治

發行者 大葉久吉

印刷者 青柳十一郎

印刷所 秀英舎第一工場

發行所 東京日本橋區本石町三丁目
 (振替口座東京二八〇番) 寶文館

發賣元 東京市日本橋區本石町三丁目
 大阪市東區淡路町四丁目 寶文館

賣捌所 (東京) 東京堂、東海堂、北隆館、
 良明堂、上田屋 (大阪) 盛文館
 (京都) 寶文館 (神戸) 寶文館

□ 書 珍 の 有 稀 來 近 □

櫻井鷗村著

(刊新最)

世界の衣食住

布裝全一冊
定價貳圓四拾錢
送料金拾二錢

□ 文學的に美化せられたる科學書は是 □

本書出て出版界
爲に賑ふ
實に盛春
必讀の一
大名著!!

衣食住は人類生存發達の骨子、文明の淵源たり。之が材料の有無相通は世界關係の起端を成す。本書は宇内人類の由つて衣食し住居する凡百の材料を捉へ、神話・傳説・歴史・文學より、現在の事實統計に説及し、讀者をして、各自日常の生活は即ち世界運行の一部たるを切實に感得せしむ。著者は文壇の宿將なり、文章明暢流麗、由來乾燥なる題目を美化して、宛然一個の文學を成し、一讀忽ち再纏を促し、多趣味の中に多知識に臻らしむ。眞に近來の名著たり。

哲學研究

第二十五號

第三卷 第四冊

大正七年(每月一回) 四月一日發行(一日發行)

(大正五年四月六日) (第三種郵便物認可)

定價金貳拾五錢

東京市本區橋本二丁目(振替) 石本區橋本二丁目(番〇八二) 寶文館 大阪市東區淡路(番三四) 大坂市東區淡路(番三四)